

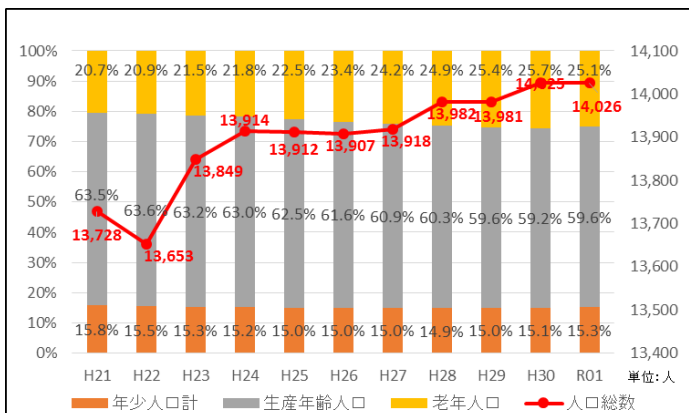
町の人口移動の状況

— 過去10年間の推移 — (新潟県人口移動調査結果報告から)

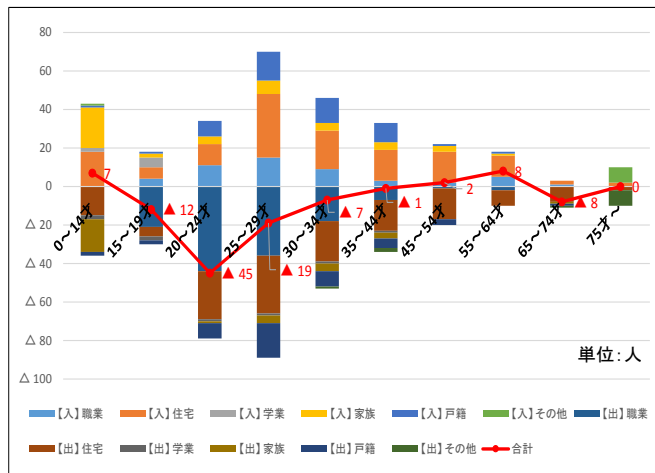
聖籠町

<本資料のポイント>

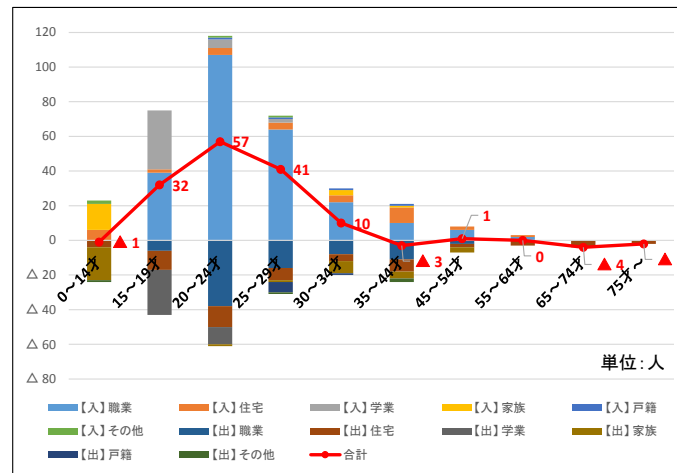
- 町の総人口は、過去10年間で297人増加したが、年少人口及び生産年齢人口は減少し、その一方で、老年人口は、H21との比較で約1.27倍の増加となっており、町における少子・超高齢化が進んでいる。(A)
- 自然増減では、近年は死亡数が出生数を上回っており、自然減の傾向にある。(B)
- H30は、県内他の市町村へ転出する者が増加の傾向にあり、その主な理由は、職業や住宅を理由とする者が多い。(C)
- 一方で、H30は、20代を中心に職業を理由として、県外からの転入が高くなっており、このことが人口を押し上げている。(主に国外から来る者。外国人と推測。(E)) また、この動態は、H21、24、27とは異なる傾向をとっている。(F)



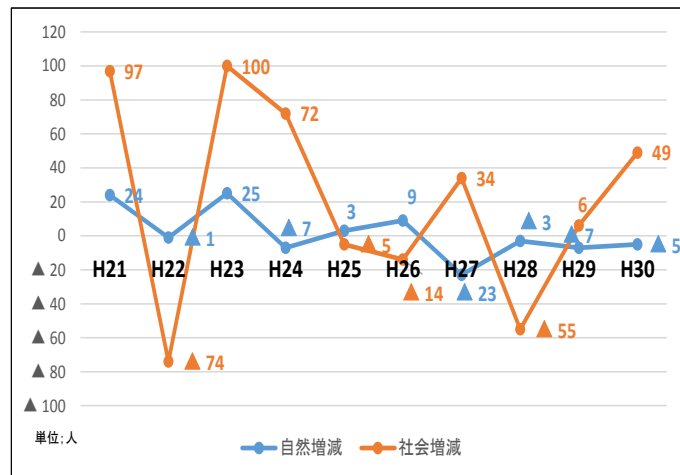
A : 人口の推移と人口区分別の割合



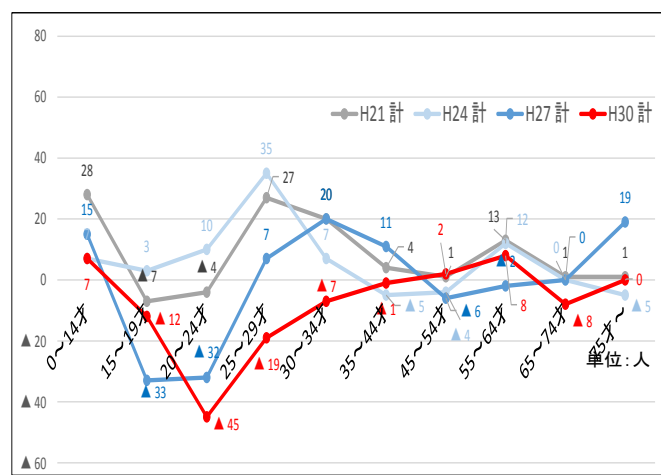
C : H30の年齢階層別の移動の状況 (県内移動)



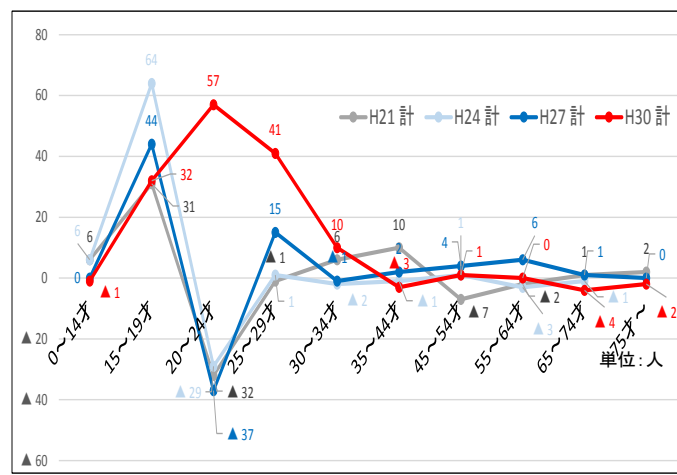
E : H30の年齢階層別の移動の状況 (県外移動)



B : 自然・社会増減の推移



D : 年齢階層別の移動理由 (県内移動)

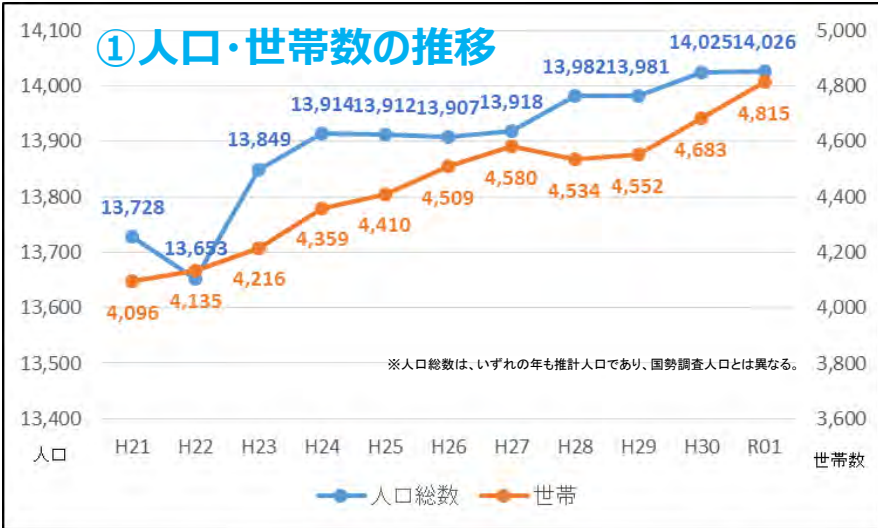


F : 年齢階層別の移動理由 (県外移動)

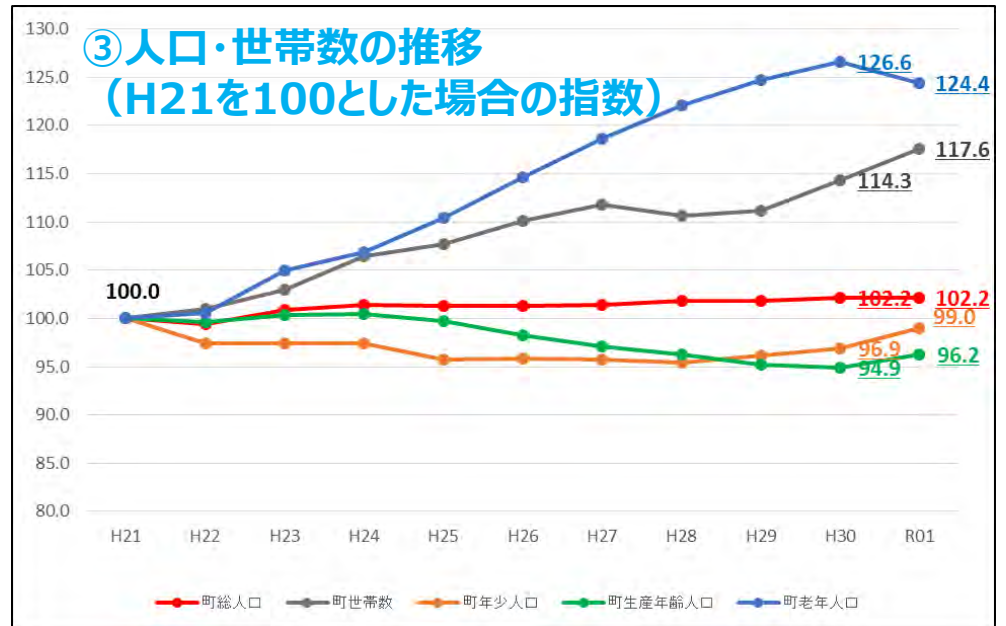
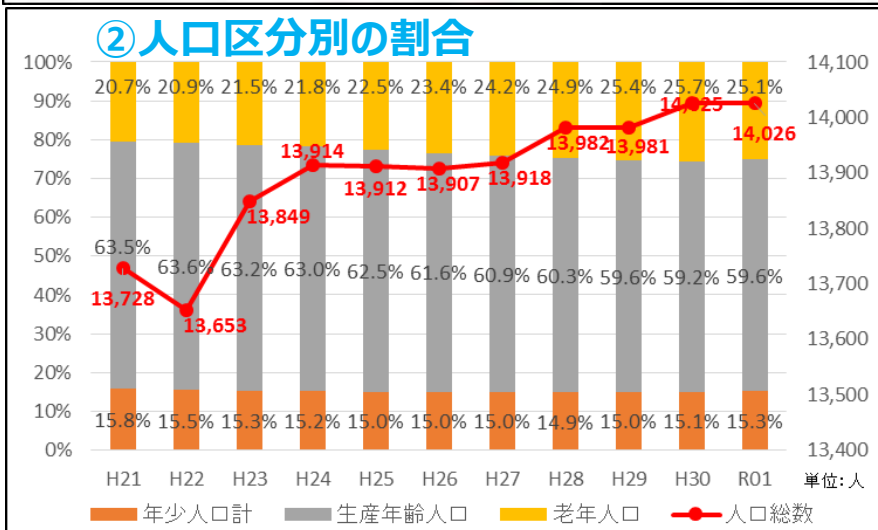
人口・世帯数の推移

- 町の総人口は、平成21年度と比較すると**298人増加**した。**世帯数も719世帯増加**しており、人口に比べて早いペースで増える傾向にあり、世帯が小規模化がうかがえる。(①)
- **年少人口及び生産年齢人口は減少**している。その一方で、**老年人口は、H21との比較で約1.24倍**の増加となっており、町における**少子・超高齢化が進んでいる**。(②、③)

令和元年9月1日の新潟県人口移動調査で推計された数値で資料を作成

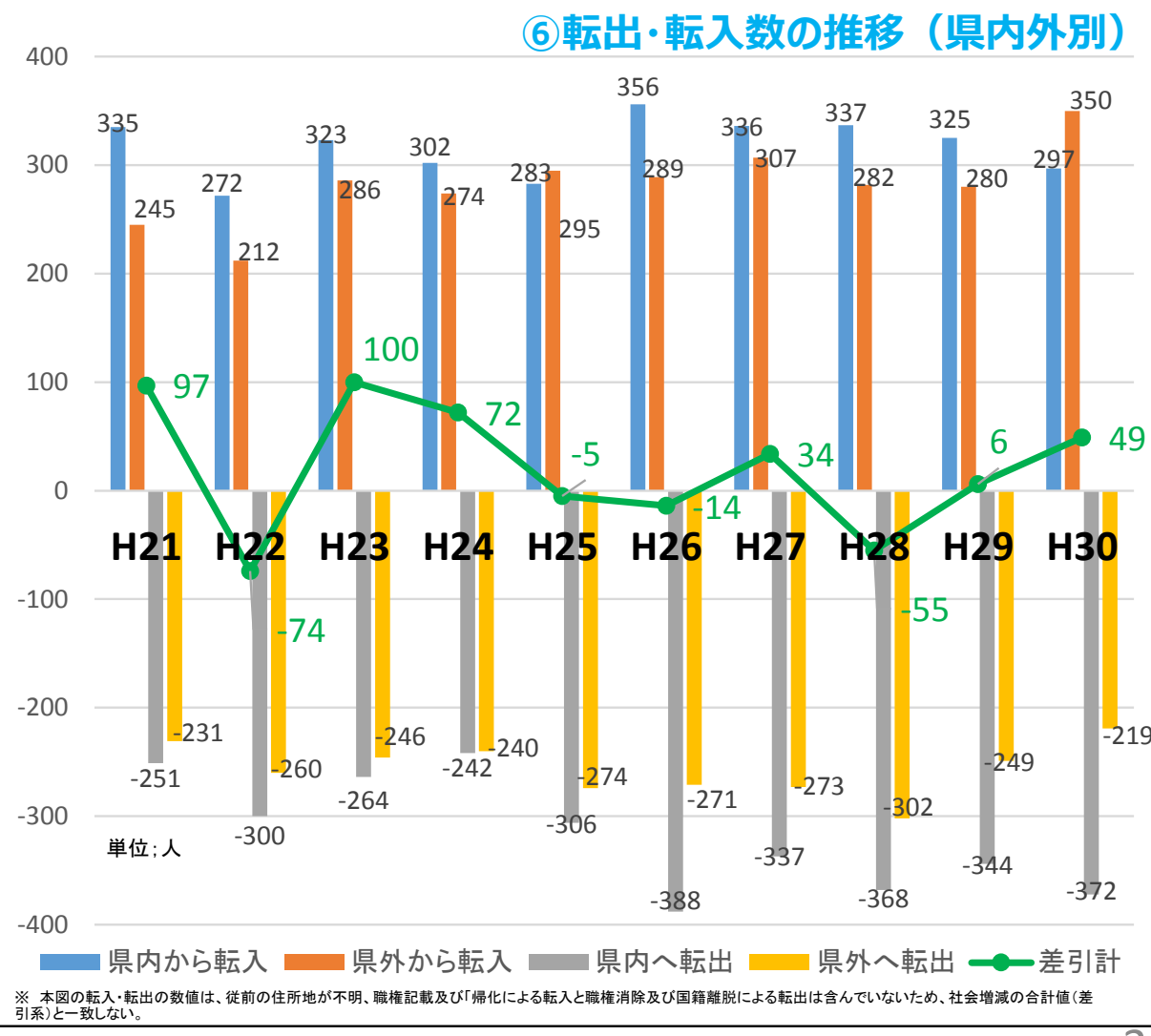
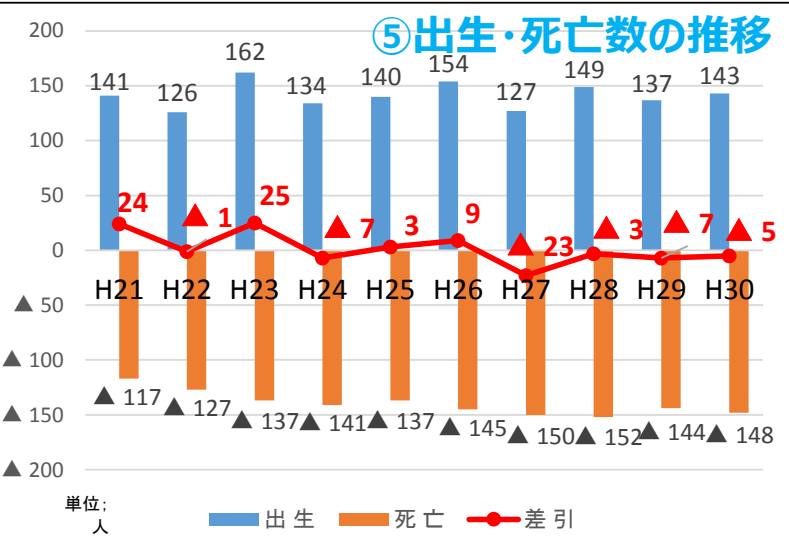
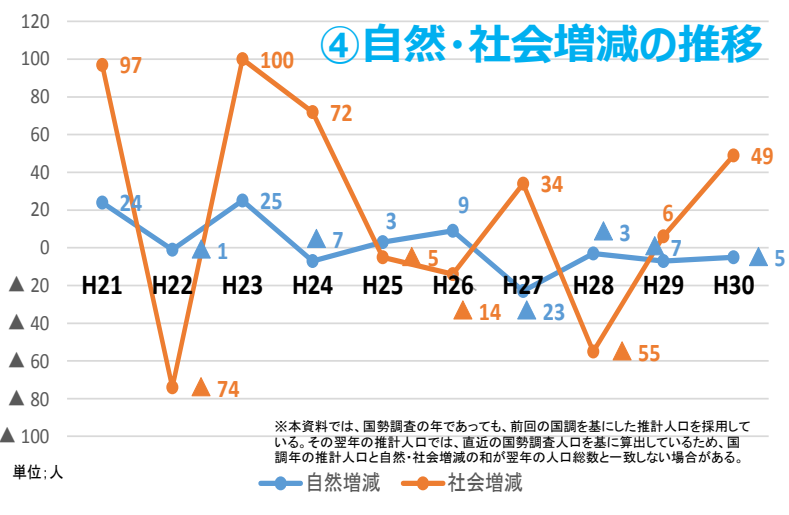


	人口総数	年少人口	生産年齢人口	老年人口	年齢不明	世帯
H21	13,728	2,173	8,720	2,835	0	4,096
H22	13,653	2,117	8,684	2,852	0	4,135
H23	13,849	2,118	8,747	2,976	8	4,216
H24	13,914	2,116	8,759	3,031	8	4,359
H25	13,912	2,080	8,694	3,130	8	4,410
H26	13,907	2,082	8,567	3,250	8	4,509
H27	13,918	2,081	8,467	3,362	8	4,580
H28	13,982	2,073	8,393	3,461	55	4,534
H29	13,981	2,089	8,300	3,537	55	4,552
H30	14,025	2,106	8,275	3,589	55	4,683
R01	14,026	2,151	8,392	3,528	45	4,815



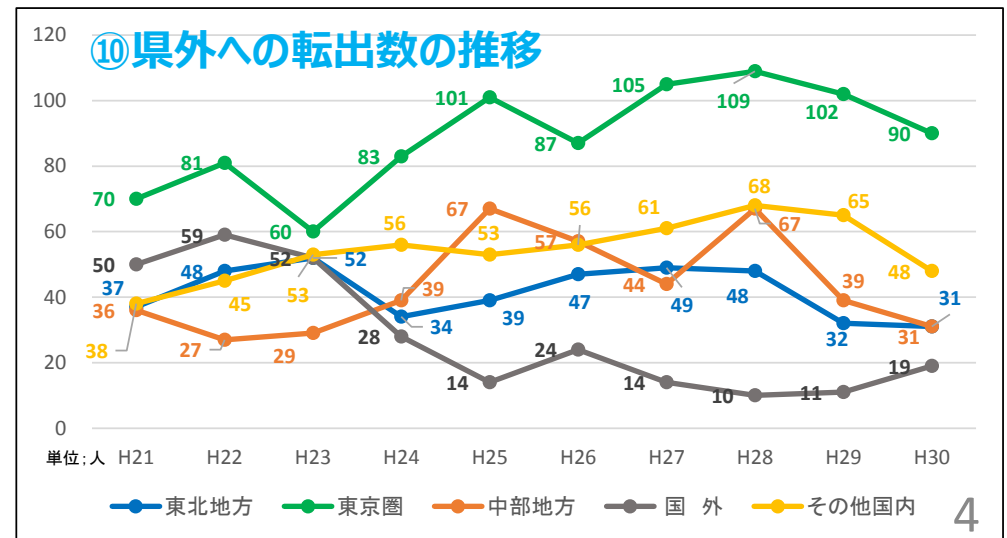
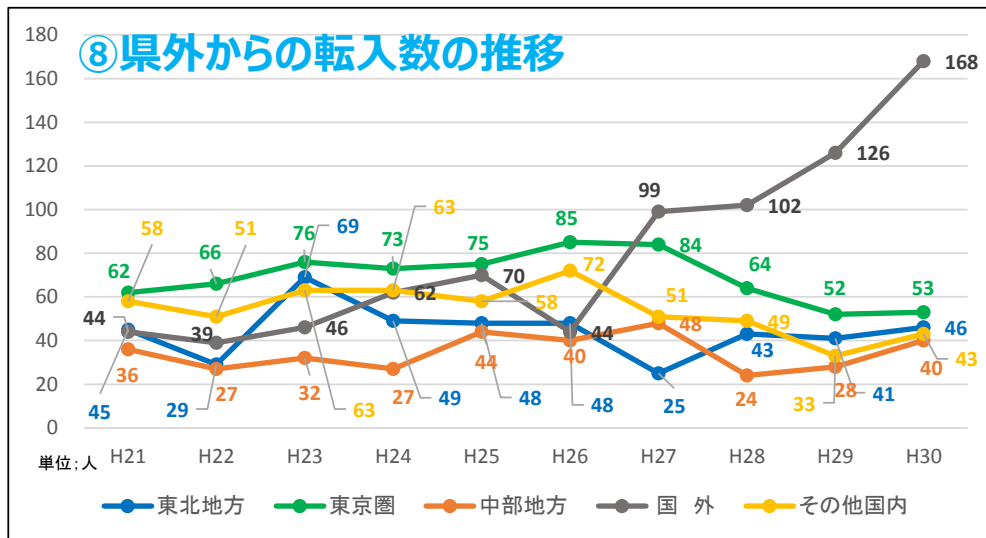
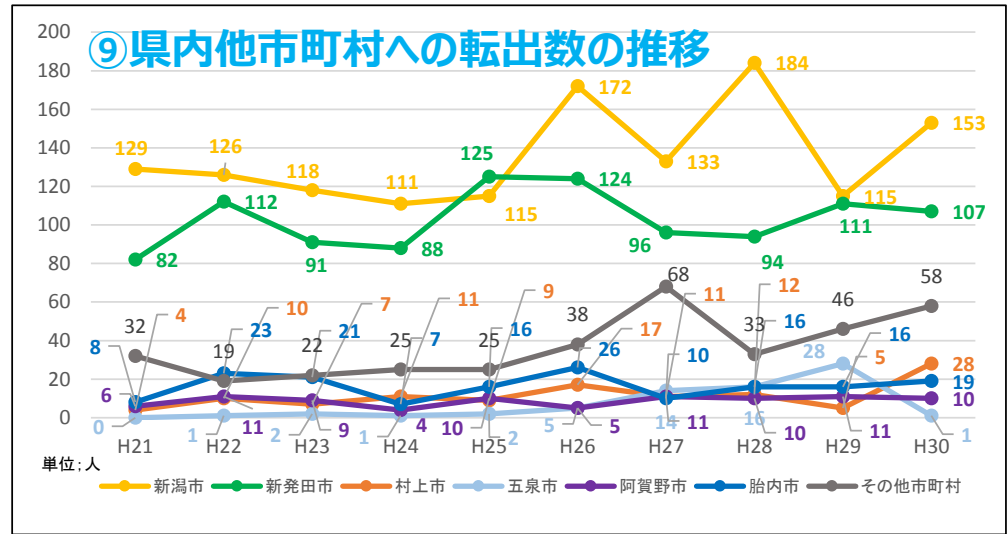
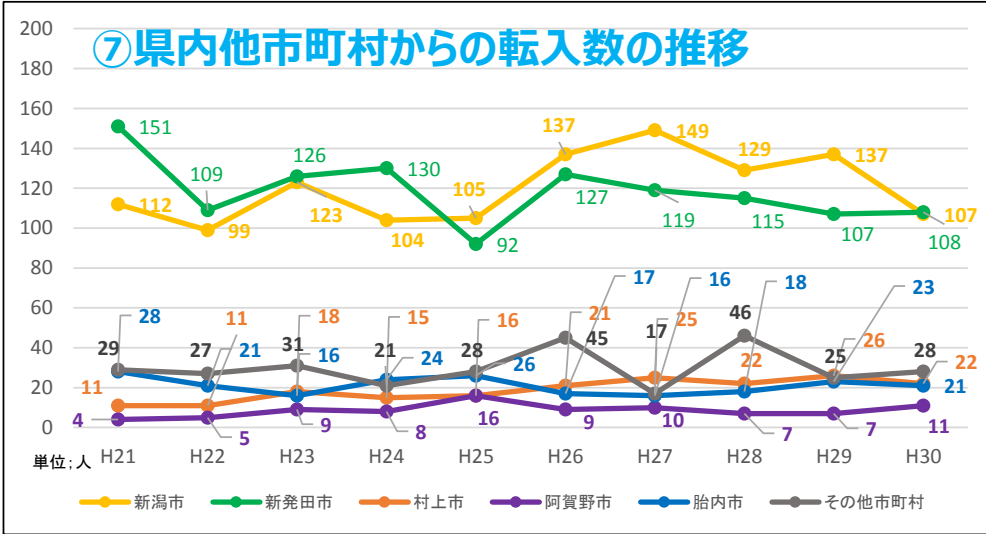
出生・死亡・転入・転出数の推移

- 町の人口動態を見ると、近年は、死亡数が出生数を上回り、**自然減の傾向**にある。ただし、出生数は概ね横ばいで推移。(④、⑤)
- 一方で、**転入が転出を上回る**ことが多く、近年の人口増加は社会的要因によるもの。(④、⑥)
- 社会増減をみると、**H30は県外からの転入が増加**した。一方で、**転出は、県内他市町村への移動が近年は増加傾向**にある。



転入・転出の動向

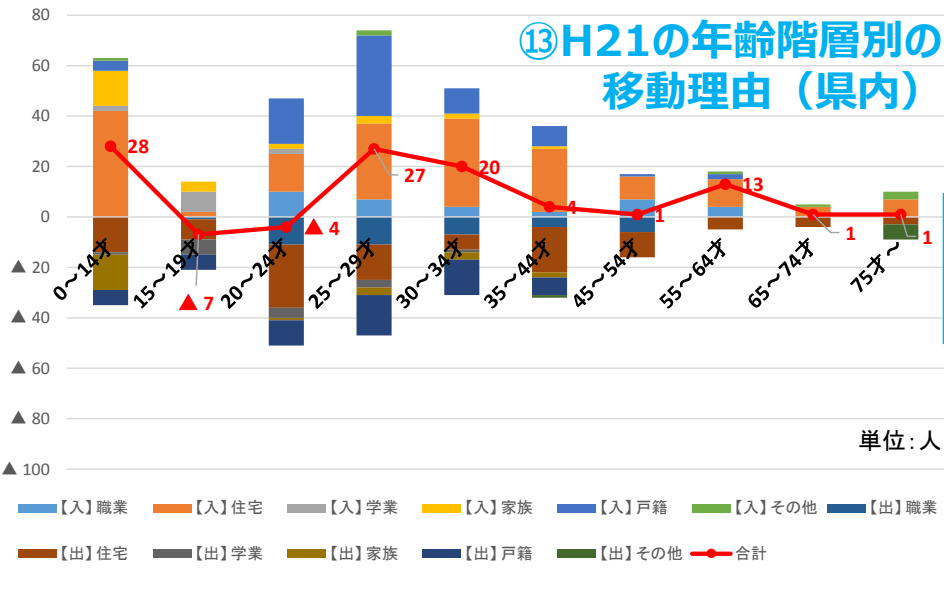
- 県内他市町村からの転入状況では、**新潟市と新発田市からの転入が多く**、その動向は概ね横ばいで推移している。(⑦)
- 県外からの転入状況では、近年、**国外からの転入者（外国人と推測）が大きく増加傾向**にある。(⑧)
- 県内他市町村への転出状況では、新潟市へのそれが最も多く、次いで新発田市となっている。(⑨)
- **県外への転出では、東京圏へのそれが最も多く**、その動向は、H21と比較すると、増加している。(⑩)



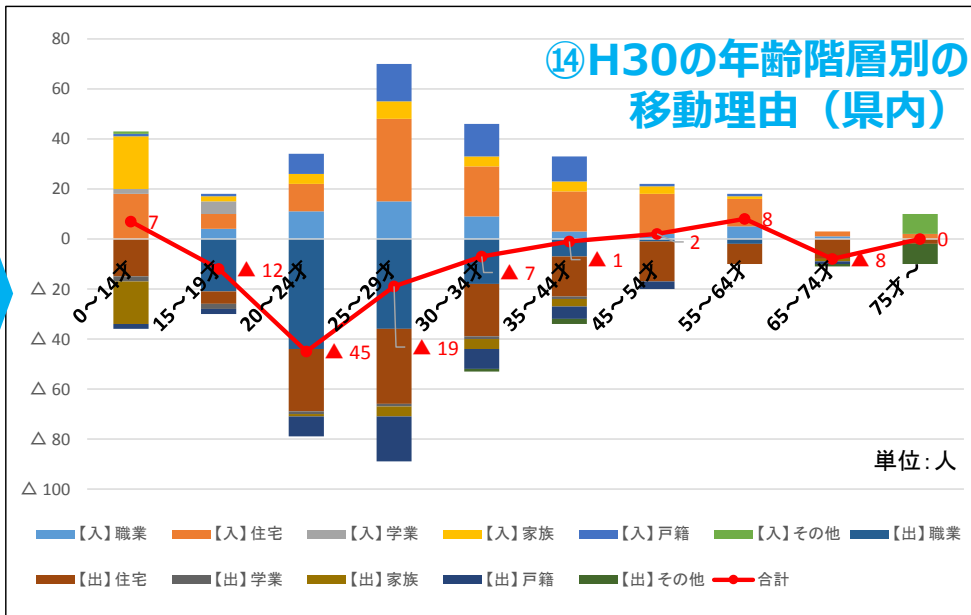
年齢階層別・理由別の移動者数の状況 - 県内移動 -

- 県内の他市町村からの転入・転出した者を年齢階層別に、移動の理由を整理したもの。
- H30では、20代の転出が最も多く、その理由は、職業又は住宅によることが大きい。(14)
- 全ての年代を通して、職業・住宅を理由とした転出は、H21と比べて、その数が大きく拡大している。(13、14)
- また、住宅を理由とする転入者数も、減少している。(13、14)

⑬ H21の年齢階層別の移動理由 (県内)



⑭ H30の年齢階層別の移動理由 (県内)



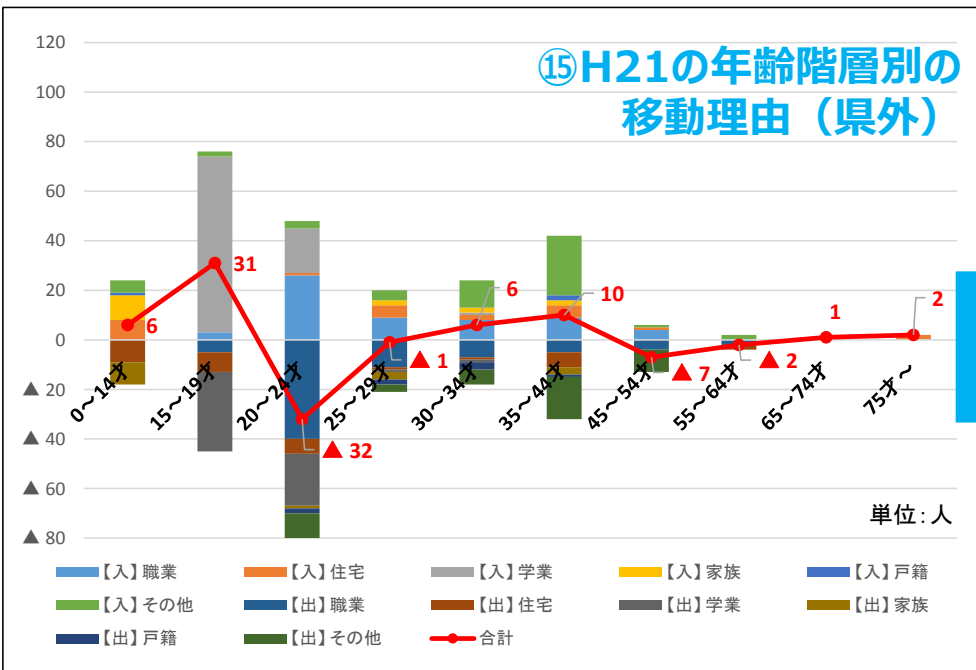
	合計	0~14才	15~19才	20~24才	25~29才	30~34才	35~44才	45~54才	55~64才	65~74才	75才~
【入】職業	34	0	0	10	7	4	2	7	4	0	0
【入】住宅	180	42	2	15	30	35	25	9	11	4	7
【入】学業	12	2	8	2	0	0	0	0	0	0	0
【入】家族	26	14	4	2	3	2	1	0	0	0	0
【入】戸籍	75	4	0	18	32	10	8	1	2	0	0
【入】その他	8	1	0	0	2	0	0	0	1	1	3
【入】小計	335	63	14	47	74	51	36	17	18	5	10
【出】職業	▲40	0	▲1	▲11	▲11	▲7	▲4	▲6	0	0	0
【出】住宅	▲107	▲14	▲8	▲25	▲14	▲6	▲18	▲10	▲5	▲4	▲3
【出】学業	▲15	▲1	▲6	▲4	▲3	▲1	0	0	0	0	0
【出】家族	▲23	▲14	0	▲1	▲3	▲3	▲2	0	0	0	0
【出】戸籍	▲59	▲6	▲6	▲10	▲16	▲14	▲7	0	0	0	0
【出】その他	▲7	0	0	0	0	0	▲1	0	0	0	▲6
【出】小計	▲251	▲35	▲21	▲51	▲47	▲31	▲32	▲16	▲5	▲4	▲9
合計	84	28	▲7	▲4	27	20	4	1	13	1	1

	合計	0~14才	15~19才	20~24才	25~29才	30~34才	35~44才	45~54才	55~64才	65~74才	75才~
【入】職業	50	0	4	11	15	9	3	2	5	1	0
【入】住宅	135	18	6	11	33	20	16	16	11	2	2
【入】学業	7	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0
【入】家族	46	21	2	4	7	4	3	1	0	0	0
【入】戸籍	50	1	1	8	15	13	10	1	1	0	0
【入】その他	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8
【入】小計	297	43	18	34	70	46	33	22	18	3	10
【出】職業	▲129	0	▲21	▲44	▲36	▲18	▲7	▲1	▲2	0	0
【出】住宅	▲146	▲15	▲5	▲25	▲30	▲21	▲16	▲16	▲8	▲8	▲2
【出】学業	▲8	▲2	▲2	▲1	▲1	▲1	▲1	0	0	0	0
【出】家族	▲30	▲17	0	▲1	▲4	▲4	▲3	0	0	▲1	0
【出】戸籍	▲47	▲2	▲2	▲8	▲18	▲8	▲5	▲3	0	▲1	0
【出】その他	▲12	0	0	0	0	▲1	▲2	0	0	▲1	▲8
【出】小計	▲372	▲36	▲30	▲79	▲89	▲53	▲34	▲20	▲10	▲11	▲10
合計	▲75	7	▲12	▲45	▲19	▲7	▲1	2	8	▲8	0

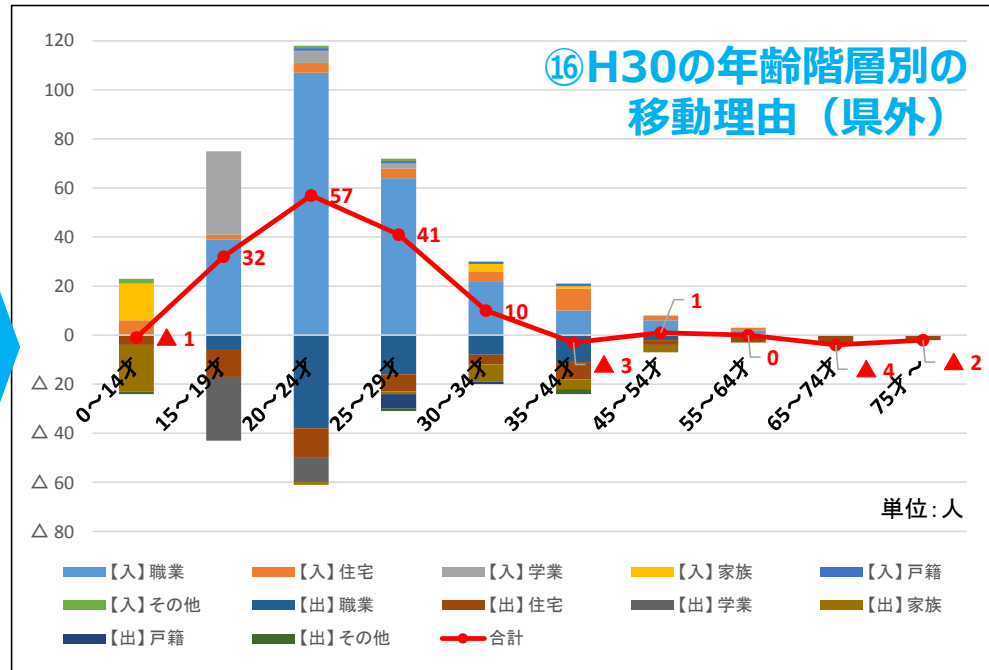
年齢階層別・理由別の移動者数の状況 - 県外移動 -

- H21は20代で職業を主な理由とした転出により、マイナス値であったものが、H30では、職業を主な理由としてプラスに大きく転じている。(15、16)
- H30は、H21と比べて学業を理由とした転入が低くなっている。(15、16)

⑮ H21の年齢階層別の移動理由 (県外)



⑯ H30の年齢階層別の移動理由 (県外)

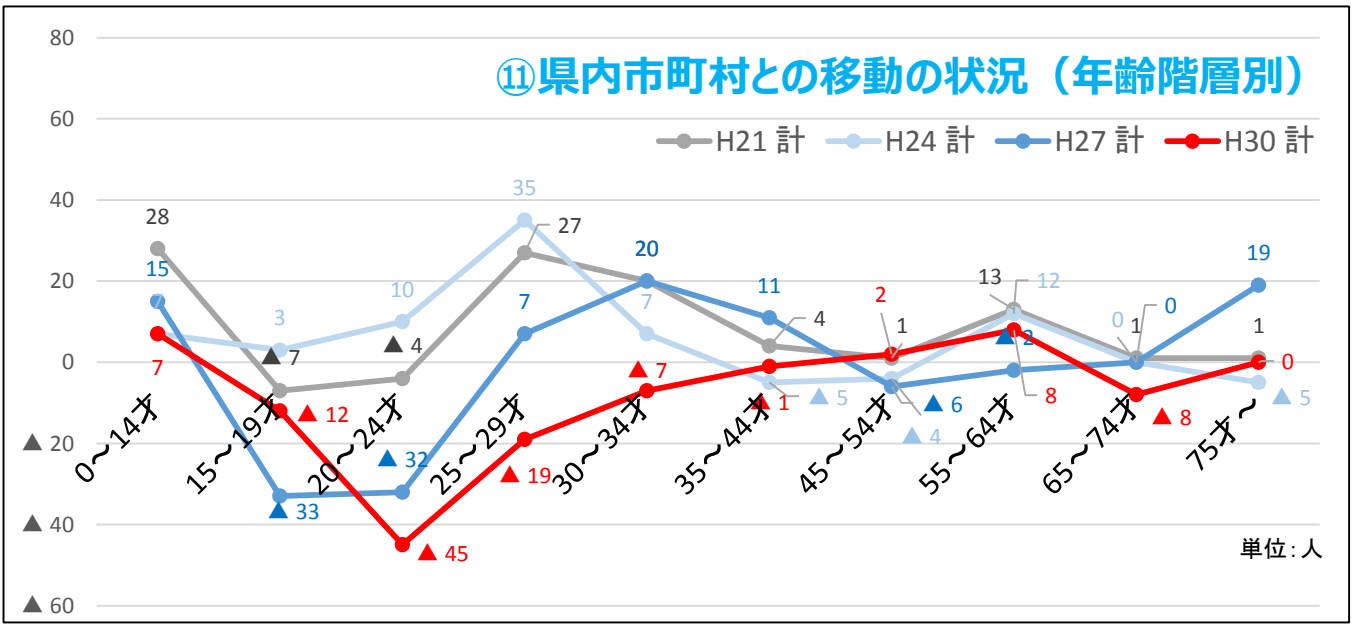


	合計	0~14才	15~19才	20~24才	25~29才	30~34才	35~44才	45~54才	55~64才	65~74才	75才~
【入】職業	59	0	3	26	9	8	9	4	0	0	0
【入】住宅	25	8	0	1	5	2	5	1	0	1	2
【入】学業	90	0	71	18	0	1	0	0	0	0	0
【入】家族	16	10	0	0	2	2	0	0	0	0	0
【入】戸籍	3	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0
【入】その他	52	5	2	3	4	11	24	1	2	0	0
【入】小計	245	24	76	48	20	24	42	6	2	1	2
【出】職業	▲74	0	▲5	▲40	▲11	▲7	▲5	▲4	▲2	0	0
【出】住宅	▲33	▲9	▲8	▲6	▲1	▲1	▲6	0	▲2	0	0
【出】学業	▲55	0	▲32	▲21	▲1	▲1	0	0	0	0	0
【出】家族	▲16	▲9	0	▲1	▲3	0	▲3	0	0	0	0
【出】戸籍	▲8	0	0	▲2	▲2	▲3	▲1	0	0	0	0
【出】その他	▲45	0	0	▲10	▲3	▲6	▲17	▲9	0	0	0
【出】小計	▲231	▲18	▲45	▲80	▲21	▲18	▲32	▲13	▲4	0	0
合計	14	6	31	▲32	▲1	6	10	▲7	▲2	1	2

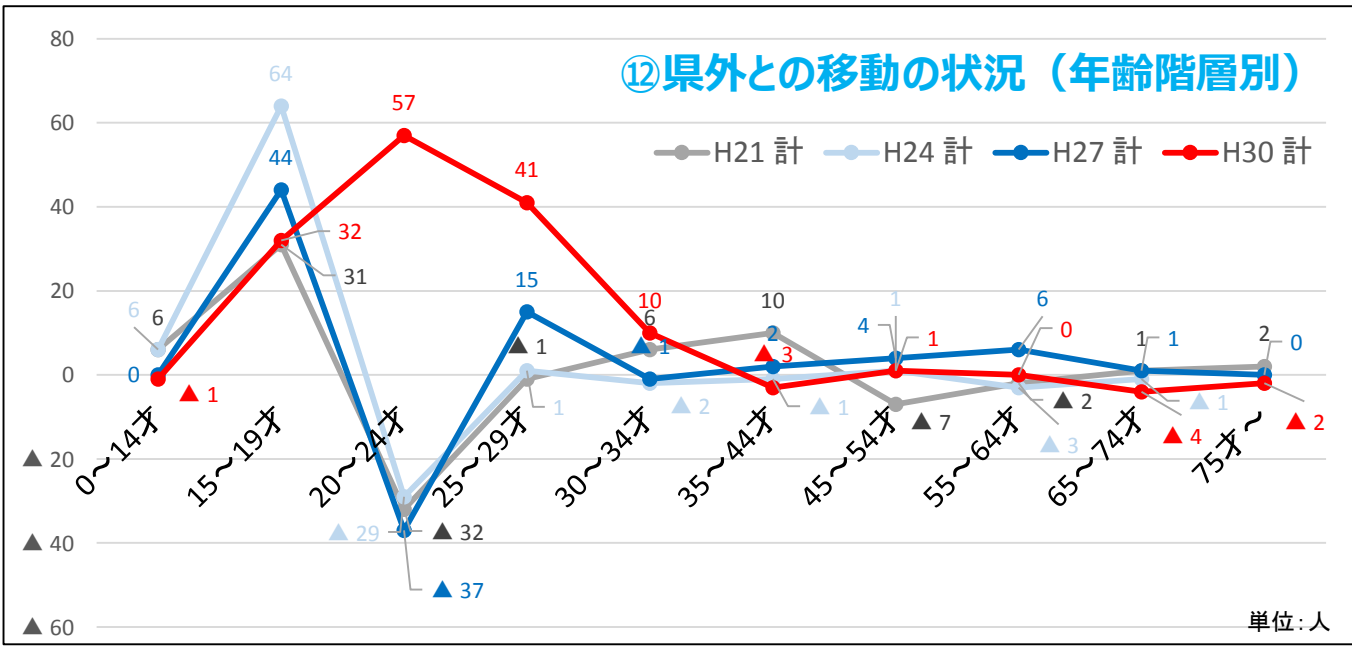
	合計	0~14才	15~19才	20~24才	25~29才	30~34才	35~44才	45~54才	55~64才	65~74才	75才~
【入】職業	250	0	39	107	64	22	10	6	2	0	0
【入】住宅	32	6	2	4	4	4	9	2	1	0	0
【入】学業	41	0	34	5	2	0	0	0	0	0	0
【入】家族	19	15	0	0	0	3	1	0	0	0	0
【入】戸籍	4	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0
【入】その他	4	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0
【入】小計	350	23	75	118	72	30	21	8	3	0	0
【出】職業	▲81	0	▲6	▲38	▲16	▲8	▲11	▲2	0	0	0
【出】住宅	▲56	▲4	▲11	▲12	▲7	▲4	▲7	▲2	▲3	▲4	▲2
【出】学業	▲36	0	▲26	▲10	0	0	0	0	0	0	0
【出】家族	▲35	▲19	0	▲1	▲1	▲7	▲4	▲3	0	0	0
【出】戸籍	▲7	0	0	0	▲6	▲1	0	0	0	0	0
【出】その他	▲4	▲1	0	0	▲1	0	▲2	0	0	0	0
【出】小計	▲219	▲24	▲43	▲61	▲31	▲20	▲24	▲7	▲3	▲4	▲2
合計	131	▲1	32	57	41	10	▲3	1	0	▲4	▲2

年齢階層別の移動者数の推移

- 年齢階層別の移動者数（差引系）の推移を整理したもの。
- H30は、県内市町村との間の移動の状況を見ると、20～34才の転出超過の幅が大きくなっている。
- 特に、25才～29才、30～44才では、H27まで転入超過であったものが、H30では転出超過に転じた。

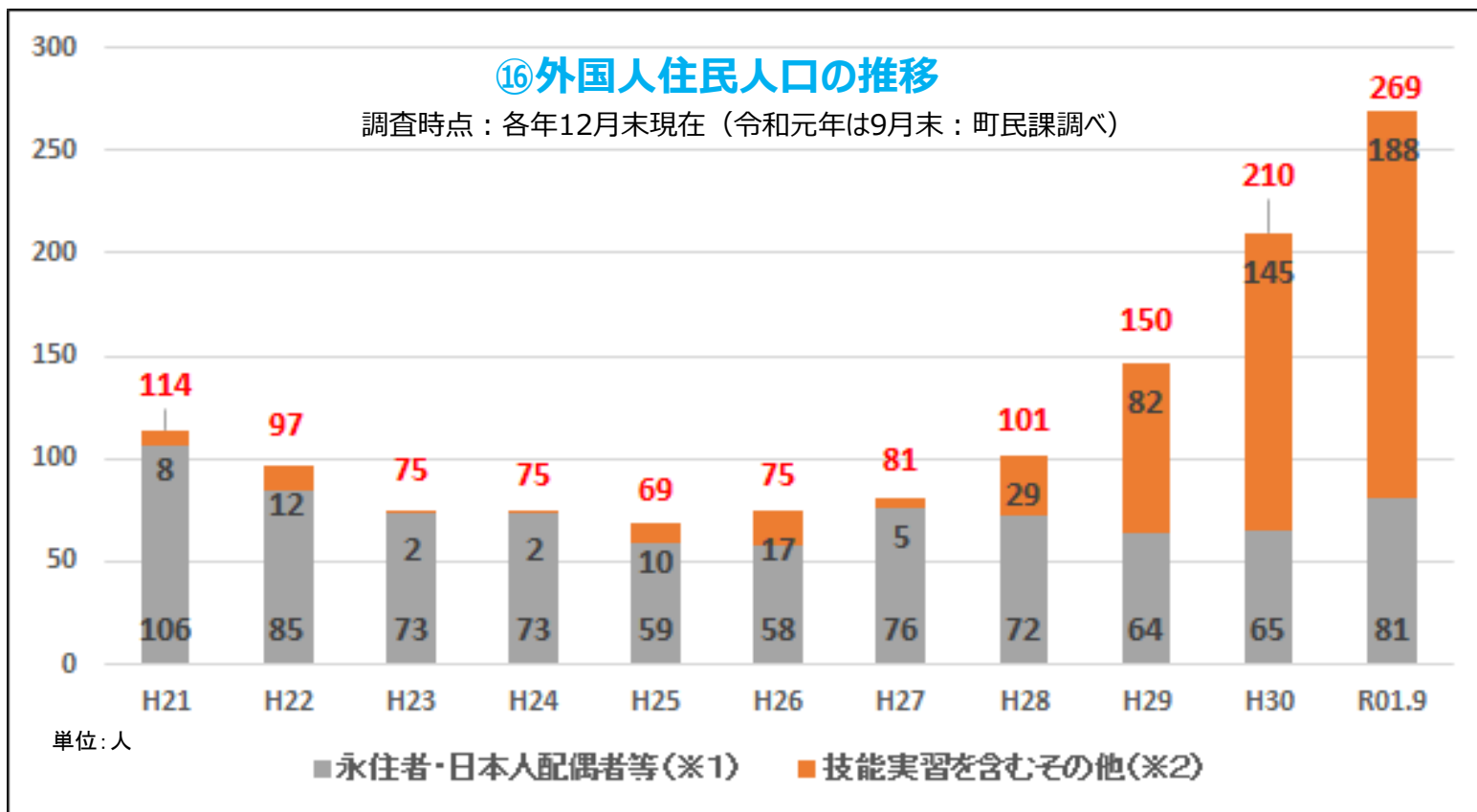


- H30は、県外との人口移動においては、20代での転入超過が大きく伸びており、この動態は、H21,24,27とは異なる傾向になっている。
- その他の年代での移動の状況は、各年で大きな変動はない。



【参考】外国人住民の状況

- 外国人住民の数は、H25までは減少傾向にあったものの、H26から徐々に増加し、**H28以降はその数を大きく伸ばしている。**
- なかでも、**技能実習等が大きく占めている。**
- 国においては、H30に、新たな外国人材を受け入れるための在留資格を創設する出入国管理及び難民認定法の一部が改正されたところ。
- こうした状況から、不足する人材の確保のために、東港立地企業等で外国人の受け入れが進み、外国人の転入は増えて状況である。
- 聖籠町の人口増の要因は外国人の転入であり、外国人の転入を除くと聖籠町の人口減少は始まっていると思われる。



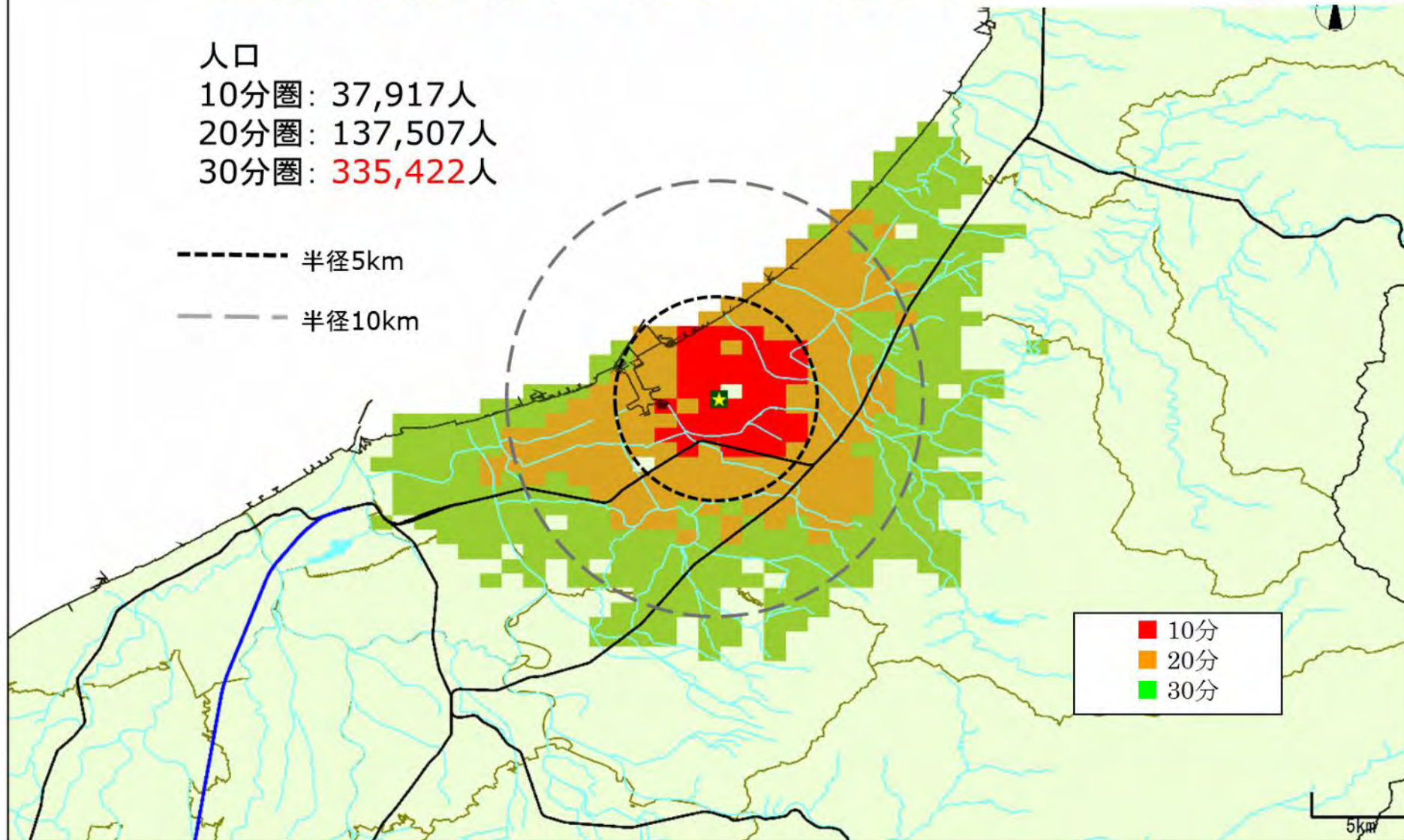
※1 「永住者・日本人配偶者等」：左記の他に定住者、短期滞在、家族滞在、留学、就学、研修、特定活動、技術人文知識、興業を含む。

※2 「技能実習を含むその他」：※1以外の在留資格による住民を指す。

聖籠町役場自動車30分圏域

人口
10分圏：37,917人
20分圏：137,507人
30分圏：335,422人

----- 半径5km
----- 半径10km



新潟駅自動車30分圏域

人口(2010年)

10分圏: 128,768人

20分圏: 431,429人

30分圏: 668,965人

----- 半径5km

----- 半径10km

